

令和2年度

地方独立行政法人福岡市立病院機構に
係る業務実績に関する評価結果報告

福 岡 市

報告第44号

地方独立行政法人福岡市立病院機構に係る業務実績に関する評価結果報告

地方独立行政法人法第28条第5項の規定により、地方独立行政法人福岡市立病院機構に係る令和2年度の業務の実績に関する評価結果について報告する。

令和3年9月3日

福岡市長 高 島 宗 一 郎

目 次

はじめに	1
第1項 全体評価	2
第2項 項目別評価	4
(1) 大項目評価	
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	4
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	6
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	7
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	8
(2) 小項目評価	
福岡市立病院機構の概要	13
全体的な状況	15
項目別の状況	22
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 医療サービス	22
2 患者サービス	48
3 医療の質の向上	58
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実	74
2 事務部門の機能強化	76
3 働きがいのある職場環境づくり	78
4 法令遵守と公平性・透明性の確保	80
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 経営基盤の強化	82
2 収支改善	88
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	
1 福岡市立子ども病院における医療機能の充実	100
2 福岡市民病院における経営改善の推進	104
第5 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画	108
第6 短期借入金の限度額	111
第7 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	111
第8 剰余金の使途	111
第9 地方独立行政法人福岡市立病院機構の業務運営等に関する規則で定める業務運営に関する事項	112
〈参考資料〉	
○地方独立行政法人福岡市立病院機構 業務実績評価の方針	113
○地方独立行政法人福岡市立病院機構 年度業務実績評価実施要領	115

はじめに

福岡市は、地方独立行政法人法第28条第1項の規定に基づき、地方独立行政法人福岡市立病院機構の令和2年度における業務実績の全体について総合的に評価を実施した。

評価に際しては、地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会において、評価に関する意見を聴取し、平成30年6月22日に決定した「地方独立行政法人福岡市立病院機構業務実績評価の方針」及び「地方独立行政法人福岡市立病院機構年度業務実績評価実施要領」に基づき評価を行った。

地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会 委員名簿

	氏 名	職 名
委員 長	松 浦 弘	福岡市医師会 副会長
副委員 長	福 田 治 久	九州大学大学院医学研究院 准教授
委 員	藤 也 寸 志	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター 院長
	大 和 日 美 子	福岡県看護協会 会長
	行 正 晴 實	公認会計士

第1項 全体評価

評価結果及び判断理由

〈評価結果〉

第3期中期目標期間の最終年度である令和2年度の業務実績に関する評価については、小項目評価の結果を踏まえ、第1及び第4の大項目評価は「評価A」、第2及び第3は「評価B」となる。

この大項目評価の結果を踏まえ、両病院ともに、新型コロナウイルス感染症(以下「コロナ」という。)の感染拡大に対して、市立病院としての役割を果たしながら、病院機能を可能な限り維持しつつ、医療水準の更なる向上を目指し、医療機能の強化や経営の効率化等に取り組んでいることから、令和2年度の業務実績は、「中期計画の実現に向けて計画どおり進んでいる」と評価する。

〈判断理由〉

福岡市から独立した法人として、理事長を中心に、両病院と運営本部が一体となった運営体制を構築し、経営管理の徹底を図っている。

福岡市立こども病院においては、コロナ禍に対応するため、専用病床の確保など環境の整備を行うとともに、これまで培ってきた小児医療及び周産期医療の更なる充実を図るなど適切に対応している。

福岡市民病院においては、「福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関」の指定を受け病床を確保するなど、福岡市におけるコロナ対策の中核的な役割を果たし、県内の患者についても広く受入れを行っている。また、4疾病(がん、脳卒中、急性心筋梗塞及び糖尿病)への対応を中心に高度専門医療及び高度救急医療の更なる充実を図っている。

経営収支面では、コロナ禍の影響等による厳しい経営環境の中、施設基準に必要な運用方法の見直しや価格交渉の徹底等による費用削減などに取り組み、コロナ対策に取り組んだことによる国や県からの補助金の交付などもあり、市立病院機構全体で11億8,000万円余の当期純利益を確保している。

全体評価にあたって考慮した内容

〈特筆すべき取組〉

〈福岡市立こども病院〉

- ・臨床研究や治験業務に積極的に取り組むなど、小児・周産期医療の発展に資する取組を行った。
- ・入退院支援推進チームの取組の充実を図り、安心して入院医療を受けられる環境づくりに努めた。

〈福岡市民病院〉

- ・コロナ禍の対応については、多くの病床を専用病床に転化し重症患者を中心に積極的に入院等を受け入れ、またJMAT(日本医師会災害医療チーム)の活動に協力し職員を派遣するなど、公立病院としての役割を積極的に果たした。

- ・「食道疾患センター」の新設などにより、診療機能の充実を図った。

〈両病院〉

- ・コロナへの対応については、病院機能を可能な限り維持しつつ、積極的に患者を受け入れた。
- ・院内感染防止対策を徹底するとともに、他病院との相互評価などの取組を行い、医療安全対策の強化を図ったことなどにより、院内クラスターを発生させることなく病院機能を維持した。
- ・コロナ禍の中にあっても人材の確保に努め、また、各種認定資格の取得や研修の受講を推進し、スタッフの専門性や医療技術の向上に努めた。

評価にあたっての意見、指摘等

- ・コロナ対応については、福岡市の感染症対策の中核的な病院として重要な取組を行った。また、福岡市だけではなく県内から広く患者を受け入れており、評価できる。
- ・院内でクラスターを発生させず対応できたこと、また、院内感染防止の取組を分析し、学会誌寄稿を通じて周知を図ってきたこと等について、高く評価できる。
- ・福岡市立こども病院のレスパイト支援や福岡市民病院の在宅療養支援のためのカンファレンスの積極的实施など地域医療への貢献が、非常に評価できる。
- ・福岡市立こども病院の診療や研究の活動の充実について、評価できる。
- ・コロナ禍の状況を踏まえると、医業収支が悪化することは一定程度受容する必要があり、経営改善の推進については、その他の指標も含めて実質的な経営状況により判断する必要がある。

第2項 項目別評価

(1) 大項目評価

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

① 評価結果 A (計画以上に進んでいる)

S	A	B	C	D
特筆すべき進捗状況にある(特に認める)	計画以上に進んでいる(120%以上)	おおむね計画どおり進んでいる(100%以上 120%未満)	やや遅れている(100%未満)	重大な改善すべき事項がある(特に認める)
【 129 %】 (a 評価点(※ウエイト換算後の合計) / b 標準点 × 100) ※小数点以下切捨て				
両病院が、コロナ対策における市立病院としての役割を果たしながら、高度専門医療等における診療機能の強化・充実を図るとともに、地域包括ケアシステムに関わる役割を果たし地域医療への貢献や推進を積極的に行っている。多数の項目で目標を上回る成果を上げており、計画以上に進んでいると評価できる。				

② 小項目評価の集計結果

項目		評価	ウエイト	ウエイト換算	
1 医療サービス	(1)良質な医療の実践	こども病院	4	2	8
		市民病院	4	2	8
	(2)地域医療への貢献と医療連携の推進	こども病院	4	2	8
		市民病院	4	2	8
	(3)災害時等の迅速かつ的確な対応(注)	こども病院	4	2	8
		市民病院	5	2	10
2 患者サービス	(1)患者サービスの向上	こども病院	4	2	8
		市民病院	3	2	6
	(2)情報発信	3	1	3	
3 医療の質の向上	(1)病院スタッフの確保と教育・研修	こども病院	3	2	6
		市民病院	4	2	8
	(2)信頼される医療の実践	こども病院	4	2	8
		市民病院	4	2	8
合計			25	a 97	
標準点(※全ての小項目評価が3)			b 75		

(注)両病院においてコロナへの対応などが大きく異なるため、両病院を分けて評価を行った。

③ 特筆すべき小項目評価等の判断理由

「1-(1) 良質な医療の実践 ア福岡市立こども病院」

○コロナの影響を受けて、多くの指標で目標値を下回ったものの、入院単価や外来単価は目標値を上回っており、また、コロナ対策において、福岡市立こども病院に求められる役割を果たすべく、コロナ病床の確保や環境の整備などに積極的に取り組んでおり、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「1-(1) 良質な医療の実践 イ福岡市民病院」

○コロナの影響を受けて、多くの指標で目標値を下回ったものの、入院単価や外来単価は目標値を上回っており、また、「第2種感染症指定医療機関」として、コロナ対策における「福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関」の指定を受け、一部病棟をコロナ専用病棟に転化し、一般患者の受入れを継続しながら、中等症以上の患者を中心に患者を積極的に受け入れており、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「1-(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 ア福岡市立こども病院」

○一部指標で目標値を下回ったが、コロナ禍の下でも医療的ケア児のレスパイト入院を受け入れており、また、認定された「新型コロナワクチン連携型接種施設」として、地域の医療従事者も含めてワクチン接種に取り組むなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「1-(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 イ福岡市民病院」

○コロナの影響を受けて、一部指標で目標値を下回ったが、地域包括ケアシステムにおいて、退院前カンファレンスの充実や新たに退院後訪問を試行するとともに、地域の医療機関に対してコロナの感染対策の情報提供を行い、患者の安全・円滑な受入体制を整備するなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「1-(3) 災害時等の迅速かつ的確な対応 ア福岡市立こども病院」

○コロナ対応においては、院内感染防止に的確に取り組みながら疑似症患者を含むコロナ患者の受入れに対応するなど、迅速かつ的確に対応がなされたものとして、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「1-(3) 災害時等の迅速かつ的確な対応 イ福岡市民病院」

○コロナ対応において、感染流行初期段階から積極的に患者を受け入れ、全病床の約2割をコロナ専用病床に転化するとともに、全員参加のコロナ禍における災害発生を想定した研修を行うなどコロナ禍の災害にも備えた。また、JMAT活動に協力したコロナ療養ホテルへの医師等の派遣、県から認定されたワクチン接種基本型接種施設としてコロナワクチン接種の対応、地域の医療機関に対する院内感染対策の情報提供など、市立病院としての役割を果たしたことを積極的に評価し、年度計画を大幅に上回って実施していると判断し、「評価5」とする。

「2-(1) 患者サービスの向上 ア福岡市立こども病院」

○指標は目標値を上回っており、また、実証実験中のLINEを利用した再診予約・予約変更の受付によって、患者家族等の利便性向上、電話受付件数の減少による業務の効率化に寄るとともに、他病院のモデルになるなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「3-(1) 病院スタッフの確保と教育・研修 イ福岡市民病院」

○特定行為に係る看護師の指定研修機関として、初めての養成者が研修を修了した。また、職員が長く働き続けられる職場環境づくりを推進し、職員の平均年休取得日数が昨年度より向上するとともに、看護師の離職率を、県内の平均値や全国の公立病院の平均値より低く抑え

るなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「3-(2) 信頼される医療の実践 ア福岡市立こども病院」

○コロナ禍において、専従看護師の増員や部門間連携を推進し、感染防止対策を徹底することにより、院内クラスターを発生させず、医療機能を可能な限り維持したことなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「3-(2) 信頼される医療の実践 イ福岡市民病院」

○様々な取組により、院内クラスターを発生させず医療機能を可能な限り維持するとともに、感染予防策の有効性について検証し、学会誌への論文発表を通じてその成果を公表するなどの取組を行った。また、医療安全に関する組織のあり方について新たな調査を実施し、客観的な分析や改善に取り組むなど、年度計画を上回って実践していると判断されるため、「評価4」とする。

④ 評価にあたっての意見、指摘等

- ・コロナ対応については、福岡市の感染症対策の中核的な病院として重要な取組を行った。また、コロナ患者を福岡市からだけでなく県内から広く受け入れており、評価できる。
- ・レスパイトの受入れの実績値は、前年と比べて遜色ない数値といえる。その他の取組も、コロナ禍の中で前年度と同等の取組が維持できたことは高く評価できる。
- ・在宅療養支援のためのカンファレンス件数が伸びており、評価できる。
- ・LINE の活用やプレパレーション動画作成など、効果的な取組として評価できる。
- ・院内でクラスターを発生させず対応できたこと、また、院内感染防止の取組を分析し、学会誌寄稿を通じて周知を図ってきたこと等について、高く評価できる。
- ・福岡市民病院の電子カルテ更新に関連して、IoTの必要性はますます高まっているが、福岡市民病院ではそこまで進んでいない印象を受ける。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

① 評価結果 B (おおむね計画どおり進んでいる)

S	A	B	C	D
特筆すべき進捗状況にある(特に認める)	計画以上に進んでいる(120%以上)	おおむね計画どおり進んでいる(100%以上 120%未満)	やや遅れている(100%未満)	重大な改善すべき事項がある(特に認める)
【 100 %】 (a 評価点(※ウエイト換算後の合計) / b 標準点 × 100) ※小数点以下切捨て				
地方独立行政法人の特長を生かした自律的・機動性の高い病院経営が行われている。働きがいのある職場環境づくりにも積極的に取り組むとともに、法令に基づき内部統制も適正に維持されていることから、おおむね計画どおり進んでいると評価できる。				

② 小項目評価の集計結果

項目	評価	ウエイト	ウエイト換算
1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実	3	1	3

2 事務部門の機能強化	3	1	3
3 働きがいのある職場環境づくり	3	1	3
4 法令遵守と公平性・透明性の確保	3	1	3
合計		4	a 12
標準点(※全ての小項目評価が3)		b 12	

③ 特筆すべき小項目評価等の判断理由

特になし。

④ 評価にあたっての意見、指摘等

- ・理事会の開催に当たり、理事などの委員の出席率は高いということで、適切に運用されていると判断できる。
- ・離職率5%台はすばらしい数値である。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

① 評価結果 B (おおむね計画どおり進んでいる)

S	A	B	C	D
特筆すべき進捗状況にある(特に認める)	計画以上に進んでいる(120%以上)	おおむね計画どおり進んでいる(100%以上 120%未満)	やや遅れている(100%未満)	重大な改善すべき事項がある(特に認める)
【 100 %】 (a 評価点(※ウエイト換算後の合計) / b 標準点 × 100) ※小数点以下切捨て				
両病院とも増収対策や費用削減に取り組み、また、コロナ対策の取り組みによる国や県からの補助金が交付された結果、当期純利益を確保しており、おおむね計画どおり進んでいると評価できる。				

② 小項目評価の集計結果

項目		評価	ウエイト	ウエイト換算	
1 経営基盤の強化	(1) 経営基盤の強化と運営費負担金の縮減	こども病院	3	2	6
		市民病院	3	2	6
	(2) 投資財源の確保	3	1	3	
2 収支改善	(1) 収益確保	こども病院	3	2	6
		市民病院	3	2	6
	(2) 費用削減	3	2	6	

合計		11	a 33
標準点(※全ての小項目評価が3)		b 33	

③ 特筆すべき小項目評価等の判断理由

特になし。

④ 評価にあたっての意見、指摘等

・コロナに対する補助金は一時的なものであるから、今後の対応を適切に検討する必要がある。
 ・コロナの影響により悪化している指標もあるが、そうした指標についてもコロナの影響を除いて評価していく必要がある。

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとすべき措置

① 評価結果 A (計画以上に進んでいる)

S	A	B	C	D
特筆すべき進捗状況にある(特に認める)	計画以上に進んでいる(120%以上)	おおむね計画どおり進んでいる(100%以上 120%未満)	やや遅れている(100%未満)	重大な改善すべき事項がある(特に認める)
【 133 %】 (a 評価点(※ウエイト換算後の合計) / b 標準点 × 100) ※小数点以下切捨て				
福岡市立こども病院においては、医療機能の充実を図るとともに、臨床研究や治験業務などで順調な成果を挙げていること、また、福岡市民病院においては、医療機能の充実を図るとともに、医療資源を効率的に活用し、福岡市におけるコロナ対策の中核的な役割を果たしていることなど、計画以上に進んでいると評価できる。				

② 小項目評価の集計結果

項目	評価	ウエイト	ウエイト換算
1 福岡市立こども病院における医療機能の充実	4	2	8
2 福岡市民病院における経営改善の推進	4	2	8
合計		4	a 16
標準点(※全ての小項目評価が3)		b 12	

③ 特筆すべき小項目評価等の判断理由

「1 福岡市立こども病院における医療機能の充実」
 ○新たに科学研究費助成事業研究に採択された研究への参加、新規案件開始につながった治験業務の強化・充実、職員の外国語能力・コミュニケーション能力のさらなる向上などに取り組んでおり、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。
 「2 福岡市民病院における経営改善の推進」
 ○コロナ禍において、通常医療を途切れさせず、一般病床の病床稼働率を高水準に保つとともに

に、一般病床のコロナ病床への転化や医療スタッフの柔軟な配置など医療資源を効率的に活用し、福岡市におけるコロナ対策の中核的な役割を果たした。収支面では、コロナ対策に伴う国や県からの補助金交付もあり、経常収支の黒字化を達成するなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

④ 評価にあたっての意見、指摘等

- ・福岡市立こども病院の診療や研究の活動の充実について、評価できる。
- ・コロナ禍の状況を踏まえると、医業収支が悪化することは一定程度受容する必要があり、経営改善の推進については、その他の指標も含めて実質的な経営状況により判断する必要がある。
- ・経常収支について、補助金による影響が大きいとはいえ、黒字を達成したことは良好な運営として評価できる。

(2) 小項目評価
別紙のとおり